資料７

八公交第　　２４　号
平成２８年１月２１日

九州運輸局長　殿

住　　所　　熊本県八代市松江城町１－２５
協議会名　　八代市地域公共交通会議
代表者名　　会長　　永原　辰秋

地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価の提出について

平成２７年度地域公共交通確保維持改善事業に伴う事業評価を行いましたので、別添のとおり報告します。

八代市地域公共交通会議 事務局
担当部署：八代市 企画政策課
担当者名：篠原　秀和
連 絡 先：0965－33－4104
E－mail：hide-smc@city.yatsushiro.lg.jp

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（計画策定に係る事業）

平成28年1月　　日

協議会名：　八代市地域公共交通会議

評価対象事業名：　地域公共交通再編推進事業（再編計画策定事業）

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
【事業内容】 昨年度策定した「八代市地域公共交通網形成計画」にて明らかになった問題点について、具体的に再編事業の内容をまとめるための調査、調整を行い、「八代市地域公共交通網再編実施計画」の策定を行った。 ・事業内容の検討・整理 ・試験運行及びアンケート調査の実施 ・関係者との調整　など 【結果概要】 ・見直し対象路線の乗降データ等を押さえながら、見直し案について、具体的に地域や関係者との協議を行うことができた。 ・試験運行の実施により、実際の利用状況、地域の関心の度合い、見直し時の課題などを確認することができた。 ・今後の協議会の検討及び関係者間の調整を経て、最終的にとりまとめる。	A	計画通り事業は適切に実施された。	平成28年度に、最終的な関係者間の調整を終え、「再編実施計画」の認定を目指す。認定を受けられた後には、生活交通確保維持改善計画を策定したいと考えている。

別添1－2

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成28年1月　日

協議会名：	八代市地域公共交通会議

評価対象事業名：	地域公共交通再編推進事業（再編計画策定事業）

地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	八代市は熊本県の中央よりやや南に位置し、市域面積は680㎢、人口は、平成27年12月末現在の住民登録人口で130,572人といずれも県内2番目の大きさとなっている。 八代市の公共交通に関しては、平成18年度から平成22年度にかけて、利用者数が88.5万人から62.6万人へと約3割減少、一方で、財政負担額は市の一般財源で132百万円から197百万円へと約5割増加していたことから、平成22年度に重複路線を解消し、市街地循環バスや山間部への乗合タクシーの導入など大幅な路線再編を行っている。 その直後は、利用者が微増するとともに、財政面でも45百万円ほど削減できたものの、近年は、再び利用者数の減少と財政負担の増加が顕著になっていきているところである。 八代市では、そんな状況を踏まえ、平成26年度に「八代市地域公共交通網形成計画」を策定し、今年度もその「網形成計画」を基に「再編実施計画」の策定に取り組んでいるところである。 「網形成計画」で明らかになった問題点を踏まえ、利用者数に応じて、路線バスから乗合タクシーへの切り替え、重複路線の解消、運賃格差の是正を図るとともに、公共交通不便地域の解消、乗り継ぎの改善などサービス水準も高めていくことで、持続可能な地域公共交通体系を構築していきたいと考えている。

八代市地域公共交通会議

事業名：27年度地域公共交通再編推進事業（再編計画策定事業）

事業の概要

【再編計画策定事業を行うエリア】
　八代市全域

【事業内容】
　昨年度策定した「八代市地域公共交通網形成計画」にて明らかになった問題点について、具体的に再編事業の内容をまとめるための調査、調整を行い、「八代市地域公共交通網再編実施計画」の策定を行った。
・事業内容の検討・整理
・試験運行及びアンケート調査の実施
・関係者との調整　　など

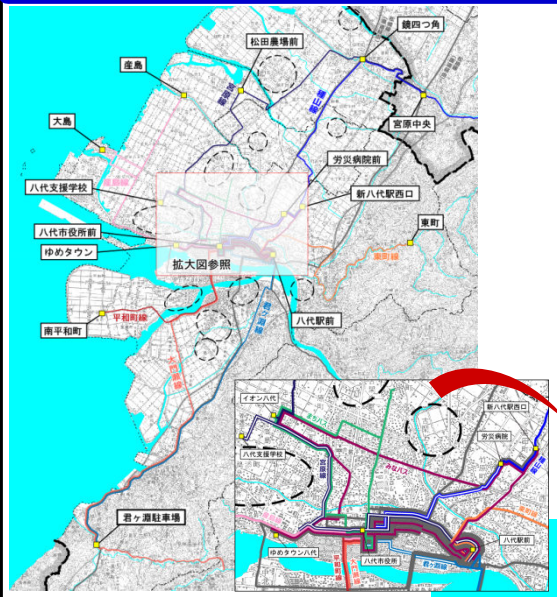
【結果概要】
・見直し対象路線の乗降データ等を押さえながら、見直し案について、具体的に地域や関係者との協議を行うことができた。
・試験運行の実施により、実際の利用状況、地域の関心の度合い、見直し時の課題などを確認することができた。
・今後の協議会の検討及び関係者間の調整を経て、最終的にとりまとめる。

【参考資料】
■八代市地域公共交通網形成計画

基礎データ

合併状況：平成17年8月に旧八代市、旧坂本村、旧千丁町、旧鏡町、旧東陽村、旧泉村の1市2町3村が合併
人　　口：130,572人（平成27年12月末現在：住民登録人口）
面　　積：680km2
過疎地域等指定：過疎地域、特定農山村、振興山村（いずれも一部指定）
高齢化率：31.5%（平成27年12月末現在）
補助対象の系統数：対象系統なし
自治体負担額：対象系統なし
協議会開催回数：協議会4回

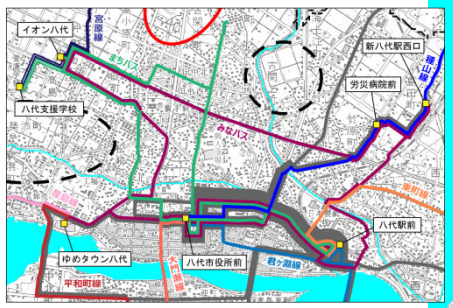
再編計画策定前の地域交通状況（Before）

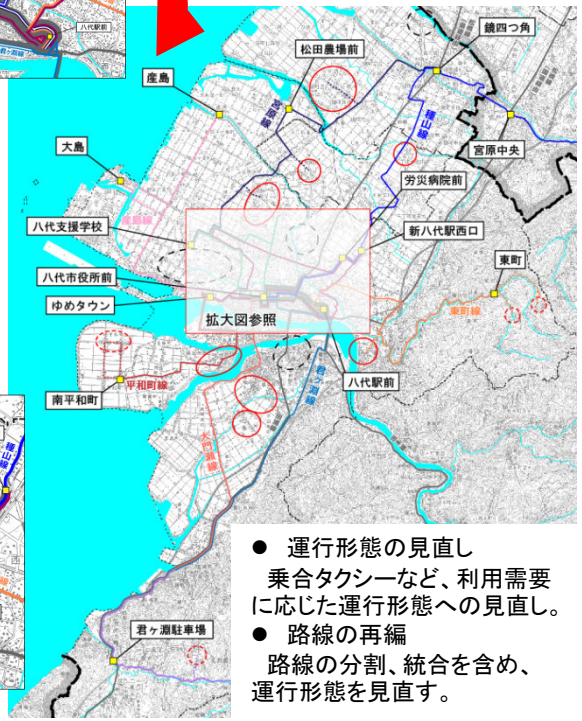


- 路線周辺に公共交通不便地域などが存在し、新たな需要を獲得できる可能性がある
- 路線が経由する交通結節点などにおいて、利用環境などの改善の余地が大きい
- 需要に対してサービス水準が過剰になっている（サービス水準を引き下げれば路線バスとして維持できる可能性がある）
- 利用者が著しく少なく、サービス水準を見直しても路線バスとしての運行を維持していくことは難しい
- 同じ路線の中でも、区間によって利用状況が著しく異なり、連続した路線として改善を考えていくことが難しい

再編実施計画（After）

- 新たな需要の獲得
　経路を一部変更し、公共交通不便地域などへ乗り入れ。新たな需要を獲得。
- 利用環境等の改善
　情報提供の工夫やダイヤの調整など、利用促進につながる取組を実施。
- サービス水準の見直し
　減便等の検討。





- 運行形態の見直し
　乗合タクシーなど、利用需要に応じた運行形態への見直し。
- 路線の再編
　路線の分割、統合を含め、運行形態を見直す。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（計画推進に係る事業）

平成28年1月　日

協議会名：　八代市地域公共交通会議

評価対象事業名：　地域公共交通調査事業（計画推進事業）

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③事業の今後の改善点 （特記事項含む）
【八代市モビリティ・マネジメント推進事業】 ◆総合路線図・総合時刻表「公共交通マップ」の作成 今まで、JR、おれんじ鉄道、高速バス、路線バス、乗合タクシーの路線図と時刻表を一度にみられるものがなかったため、MM実施にあわせて作成。 ◆企業MMの実施【市内企業2社】 昨年度実施したアンケートを基に、公共交通に関して協力的な企業の中から2社を選出し、それぞれの環境に応じたMMを実施。 MMとしての働きかけは、「公共交通マップ」、大人向け啓発冊子、アンケート、一部の方には「通勤プラン」も配布など。今後、事後アンケートやワークショップ、フィードバックの配布を予定している。また、アクセスが不便な企業については、2月に通勤バスを運行するなど、今後の路線見直しにつなげるデータも調査してみたいと考えている。 ・アクセスが比較的便利な企業：288人 ・アクセスが不便な企業：374人 ◆学校MMの実施【市内高校2校・中学校1校】 企業と同様に昨年度実施のアンケートを基に高校2校を選出。さらに付属の中学校も含め学校MMを実施。 循環バスのお試し券を配布するグループと配布しないグループに分け、行動変容を調査。 その他のMMの働きかけは、「公共交通マップ」、学校MM用啓発冊子、アンケート。今後、事後アンケートやワークショップ、フィードバックの配布を予定している。 ・お試し券あり：376人 ・お試し券なし：609人	A	計画通り事業は適切に実施された。	「公共交通マップ」については、転入者を中心に、できるだけ多くの市民に配布したいと考えている。 企業MMについては、その成果を踏まえ、次年度以降は、市民向けMMの実施を検討している。 また、アクセスが不便な企業で得られた情報を基に、路線の見直しについても検討を行っていきたい。 学校MMについては、その成果を踏まえ、今回実施した以外の学校への展開を検討している。

別添1－2

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成28年1月　　日

協議会名：	八代市地域公共交通会議

評価対象事業名：	地域公共交通調査事業（計画推進事業）

地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	八代市は熊本県の中央よりやや南に位置し、市域面積は680㎢、人口は、平成27年12月末現在の住民登録人口で130,572人といずれも県内2番目の大きさとなっている。 平成22年度の路線再編、平成26年度の「八代市地域公共交通網形成計画」の策定、平成27年度の「再編計画策定事業」の実施など、財政負担を抑えながら、持続可能な地域公共交通体系の構築に向けて取り組んでいるところである。 しかしながら、市民アンケートの結果でも「公共交通を利用していない」人が75%を超え、公共交通を利用しない一番多い理由は「そもそも公共交通を利用しようと考えたことがない」（24.6%）であることを考えると、もっと多くの市民に、公共交通のことを知ってもらい、せめて、外出時の選択肢の一つに入れていただけるような働きかけが重要であると考えている。 そのためにも、「網形成計画」に記載しているとおり、市民に対し「積極的な広報・分かりやすい情報提供や利用の“きっかけ”づくりの実施」、「モビリティ・マネジメントの実施」を継続し、少しでも多くの方が八代市の地域公共交通について、意識し、考えていただける環境をつくっていきたいと考えている。

八代市地域公共交通会議

事業名：27年度　地域公共交通調査事業（計画推進事業）

概　要

【八代市モビリティ・マネジメント推進事業】

◆総合路線図・総合時刻表「公共交通マップ」の作成
　今まで、JR、おれんじ鉄道、高速バス、路線バス、乗合タクシーの路線図と時刻表を一度にみられるものがなかったため、MM実施にあわせて作成。

◆企業MMの実施【市内企業2社】
- 企業MMの実施にあたり、大人向けに公共交通への意識を高めてもらう啓発冊子を作成。
- 昨年度実施したアンケートを基に、公共交通に関して協力的な企業の中から2社を選出し、それぞれの環境に応じたMMを実施。
- MMとしての働きかけは、「公共交通マップ」、大人向け啓発冊子、アンケート、一部の方には「通勤プラン」も配布など。今後、事後アンケートやワークショップ、フィードバックの配布を予定している。また、アクセスが不便な企業については、アンケート結果などを基に、今後の路線見直しも検討していきたいと考えている。
  ・アクセスが比較的便利な企業：288人
  ・アクセスが不便な企業：374人

◆学校MMの実施【市内高校2校・中学校1校】
- 企業と同様に昨年度実施のアンケートを基に高校2校を選出。さらに付属の中学校も含め学校MMを実施。
- 循環バスのお試し券を配布するグループと配布しないグループに分け、行動変容を調査。
- その他のMMの働きかけは、「公共交通マップ」、学校MM用啓発冊子、アンケート。今後、事後アンケートやワークショップ、フィードバックの配布を予定している。
  ・お試し券あり：376人
  ・お試し券なし：609人

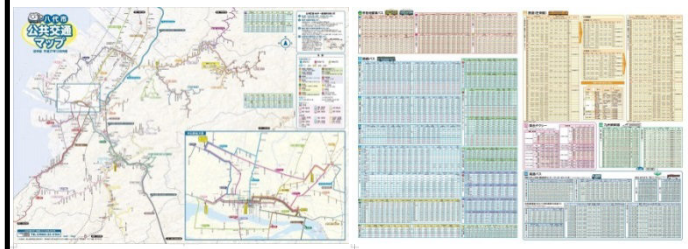
基礎データ

合併状況：平成17年8月に旧八代市、旧坂本村、旧千丁町、旧鏡町、旧東陽村、旧泉村の1市2町3村が合併
人　　口：130,572人（平成27年12月末現在：住民登録人口）
面　　積：680km2
過疎地域等指定：過疎地域、特定農山村、振興山村（いずれも一部指定）
高齢化率：31.5%（平成27年12月末現在）
補助対象の系統数：対象系統なし
自治体負担額：対象系統なし
協議会開催回数：協議会4回

計画推進事業における取組内容（Plan）

啓発冊子及び総合時刻表の作成と学校・企業に対するMMの実施。

計画推進事業の実施状況（Do）



← 総合路線図と総合時刻表
　今後、MMのワークショップ等での意見と、ダイヤ改正、路線再編等の情報を反映させた上で、市民に配布していきたいと考えている。
　データは市HPで公表予定。

← (左)企業MM啓発冊子
(右)学校MM啓発冊子。
　MMを実施するにあたり、啓発冊子を作成。
　特に学校MMの冊子については、興味を持ってもらうためにマンガで伝えるようにした。

目標の達成（Check）

　いずれの指標についても、基準値はH26年度、実績値はH27年度、目標値はH31年度を指す。
指標①-1：公共交通不便地域の居住人口割合（%）　基準値：19.3　**実績値：19.3**　目標値：15.0
指標①-2：公共交通の平均利用回数（回/人・年）　基準値：4.7　**実績値：4.6**　目標値：5.2
指標②：市街地循環バスの利用者数（万人/年）　基準値：28.4　**実績値：28.2**　目標値：37.0
指標③：乗合タクシーの平均利用回数（回/人・年）　基準値：3.1　**実績値：3.1**　目標値：4.1
指標④：拠点間連携の軸となるバス路線の平均利用回数（回/人・年）
基準値：1.6　**実績値：1.5**　目標値：1.6
指標⑤-1：公共交通サービス提供エリアの人口一人あたりの財政負担額（千円/人・年）
基準値：1.7　**実績値：1.7**　目標値：1.7
指標⑤-2：直近1か月間で公共交通を利用した人の割合（市民アンケート調査）
基準値：17.9%　目標値：20.0%　※計画最終年度にアンケートを実施する予定のため実績値なし。
　まだ、働きかけを始めたばかりであり、効果が発現するまでには至っていない状況。

今後の課題、対応（Action）

　事業を実施したことにより、アクセスが比較的便利だと思われていた企業（小売業）についても、業種等によって、帰宅時刻に路線バスが走っていないなど、通勤に利用しにくい状況であったことが判明。そういった、利用者の立場にたった情報の収集と得られた情報を踏まえた改善を実施することで、公共交通利用者数の増加を図り、「網形成計画」の目標達成につなげていきたい。

※PDCAを記入する際、枠が足りない場合は、次頁に作成することも可能とします。